

鶏肉情勢

令和3年1月6日 更新

全農チキンフーズ㈱

項目	内容
生	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和2年12月下旬実施)によると、令和2年11月の推計実績は、処理羽数60,692千羽(前年比99.0%)・処理重量183.4千ト(同99.0%)となり、前月時点の計画値と比較すると処理羽数(同98.2%)は+0.8%、処理重量(同97.4%)も+1.6%と、ともに上方修正された。しかしながら廃棄合計は3.78%と前年同月より0.78%上回った。 (2) 令和2年12月は処理羽数(前年比101.2%)・処理重量(同100.4%)とも前月時点の計画値(101.4%・100.5%)より若干の下方修正。令和3年1月も処理羽数(同98.8%)・処理重量(97.8%)ともに前年を下回り、前月時点の計画値(99.1%・98.3%)からも下方修正された。続発する鳥インフルエンザの影響が加味されたと考えられる。なお、今季の発生事例は、令和2年12月24日時点で13県32事例となっており、処分羽数含め過去最多を更新している。例年5月連休頃までは感染リスクが高いため、防疫体制の更なる強化・徹底が必要と思われる。
	2. 輸入 (1) 財務省令和2年12月25日発表の貿易統計によると、令和2年11月の鶏肉(原料肉)輸入量は45.30千ト(前年比92.8%)で、日本食肉輸出入協会の予測(44.40千ト)を約0.9千ト上回り、国別ではブラジルが予測を約0.7千ト上回る33.23千ト(同92.0%)、タイも約0.1千ト上回る10.60千ト(同98.7%)となった。同年1-11月累計では492.28千ト(同95.0%)と前年を下回った。同協会(同年12月18日鶏肉輸入動向検討委員会)は、12月41.40千ト(同92.2%)、令和3年1月43.30千ト(同104.0%)との予測を公表し12月現在、動きがやや回復してきたものの、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で不透明な状況。一方、国内の鳥インフルエンザの感染拡大に伴い、タイ産ムネ肉への引合いが強まってきており、現地価格も上昇し始めている。ブラジル産についても底値は脱して緩やかな上昇基調にある。」とコメントしている。 (2) 鶏肉調整品の令和2年11月輸入量は42.7千ト(前年比94.6%)と、前月より約3.5千ト増加し、5ヶ月ぶりに40千トを超えとなった。国別ではタイ産が前月比約1.5千ト増加し前年比98.9%の27.72千ト、中国産も前月比約2.0千ト増加の14.44千ト(同87.5%)となった。同年1-11月累計では前年比91.4%と引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で外食需要等が落ち込んでおり下回った。12月以降についても、回復の兆しがあるものの、流動的で中国国内の動向次第と思われる。
産	1. 家計消費 (1) 総務省統計局発表の家計調査報告によると、令和2年10月は、全国一世帯当たりの3畜種生鮮肉の消費(購入)数量は4,030g(前年比106.9%)、金額も5,946円(同110.3%)と、ともに前年を上回った。畜種別でみると牛肉は数量(同120.7%)・金額(同116.4%)ともに上回り、豚肉も数量(同105.9%)・金額(同107.7%)ともに上回った。鶏肉についても、牛肉・豚肉に比べ安価なこと等で前月に引き続きテーブルミート等での購入が活発で数量(同103.7%)・金額(同108.5%)とも伸び率は前月に比べ低かったものの前年を上回った。また加工品についてはソーセージ(同98.1%)の数量が下回ったが、ハム(同101.1%)・ベーコン(同102.2%)の数量が増加した。
	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和2年11月の食品売上高は全店ベースで前年比104.7%と上回り、生鮮3部門の売上高も全店ベースで前年比105.4%、既存店ベースでも同104.1%と上回った。畜産部門の売上高は1,127億円(前年比106.2%)、既存店ベース(同104.9%)とも前月に続き前年を上回った。「家庭内消費需要が堅調であり、全般的に好調に推移した。鍋用食材の引き合いが強く、なかでも鶏肉がよく売れた。牛肉は、平日は輸入肉や切り落とし、週末は和牛ステーキ用など高単価の牛肉が好調となっている。豚肉は鍋商材の動きがよいが、国産豚が相場高で伸び悩んだ店舗も。ハムなどの畜産加工品は、家庭用、ギフト共に好調とのコメントが多くみられた。」と報告された。また総菜部門の売上高は全店ベース(同101.6%)・既存店ベース(同100.4%)とも上回り、「中旬以降、感染の再拡大を背景に家庭内調理需要が増え伸び悩みをみせた。引き続きバラ売り販売自粛、イベント中止などの影響を受けている。日中の弁当類にはやや回復傾向がみられるが、夜時間帯は通勤客の減少により伸び悩んだ店舗も多い。種類・おつまみ総菜は堅調に推移した。青果相場安の影響で、サラダ関連は不調となった店舗が多い。年末やおせち関連の予約販売が好調に推移している。」と報告があった。
需	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる令和2年10月期の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比97.6%の4.69千トとなった。うち国内物は同97.2%の3.91千トと下回り、輸入物も同99.4%の0.78千トと下回った。同年1-10月累計では国産物は同100.2%と上回っているものの、輸入物が同88.6%と大幅に下回り合計でも同98.2%となった。鶏肉加工品は12月以降も引き続き家庭内需要や中食需要の高まりから動きも堅調と考えられる。国産原料の市況価格が高止まりしているものの、中国等からの調整品輸入が減少とされていることを考えると引き続き国産物での製造量増加が期待できると考えられる。
	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和2年11月の食品売上高は全店ベースで前年比104.7%と上回り、生鮮3部門の売上高も全店ベースで前年比105.4%、既存店ベースでも同104.1%と上回った。畜産部門の売上高は1,127億円(前年比106.2%)、既存店ベース(同104.9%)とも前月に続き前年を上回った。「家庭内消費需要が堅調であり、全般的に好調に推移した。鍋用食材の引き合いが強く、なかでも鶏肉がよく売れた。牛肉は、平日は輸入肉や切り落とし、週末は和牛ステーキ用など高単価の牛肉が好調となっている。豚肉は鍋商材の動きがよいが、国産豚が相場高で伸び悩んだ店舗も。ハムなどの畜産加工品は、家庭用、ギフト共に好調とのコメントが多くみられた。」と報告された。また総菜部門の売上高は全店ベース(同101.6%)・既存店ベース(同100.4%)とも上回り、「中旬以降、感染の再拡大を背景に家庭内調理需要が増え伸び悩みをみせた。引き続きバラ売り販売自粛、イベント中止などの影響を受けている。日中の弁当類にはやや回復傾向がみられるが、夜時間帯は通勤客の減少により伸び悩んだ店舗も多い。種類・おつまみ総菜は堅調に推移した。青果相場安の影響で、サラダ関連は不調となった店舗が多い。年末やおせち関連の予約販売が好調に推移している。」と報告があった。
要	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによる令和2年10月期の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比97.6%の4.69千トとなった。うち国内物は同97.2%の3.91千トと下回り、輸入物も同99.4%の0.78千トと下回った。同年1-10月累計では国産物は同100.2%と上回っているものの、輸入物が同88.6%と大幅に下回り合計でも同98.2%となった。鶏肉加工品は12月以降も引き続き家庭内需要や中食需要の高まりから動きも堅調と考えられる。国産原料の市況価格が高止まりしているものの、中国等からの調整品輸入が減少とされていることを考えると引き続き国産物での製造量増加が期待できると考えられる。
	2. 量販・卸 (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和2年11月の食品売上高は全店ベースで前年比104.7%と上回り、生鮮3部門の売上高も全店ベースで前年比105.4%、既存店ベースでも同104.1%と上回った。畜産部門の売上高は1,127億円(前年比106.2%)、既存店ベース(同104.9%)とも前月に続き前年を上回った。「家庭内消費需要が堅調であり、全般的に好調に推移した。鍋用食材の引き合いが強く、なかでも鶏肉がよく売れた。牛肉は、平日は輸入肉や切り落とし、週末は和牛ステーキ用など高単価の牛肉が好調となっている。豚肉は鍋商材の動きがよいが、国産豚が相場高で伸び悩んだ店舗も。ハムなどの畜産加工品は、家庭用、ギフト共に好調とのコメントが多くみられた。」と報告された。また総菜部門の売上高は全店ベース(同101.6%)・既存店ベース(同100.4%)とも上回り、「中旬以降、感染の再拡大を背景に家庭内調理需要が増え伸び悩みをみせた。引き続きバラ売り販売自粛、イベント中止などの影響を受けている。日中の弁当類にはやや回復傾向がみられるが、夜時間帯は通勤客の減少により伸び悩んだ店舗も多い。種類・おつまみ総菜は堅調に推移した。青果相場安の影響で、サラダ関連は不調となった店舗が多い。年末やおせち関連の予約販売が好調に推移している。」と報告があった。
在	1. 令和2年(2020年)10月 (1) 推計期末在庫は国産26.81千ト(前年比91.5%・前月差△0.97千ト)、輸入品134.14千ト(同97.3%・同△4.30千ト)と合計で160.94千ト(同96.3%・同△5.26千ト)となった。前月に比べ生産量が14.89千ト増加し、輸入量も6.41千ト増加した。国産品の出荷量が生産量を上回ったため、国産品の在庫は減少した。輸入品は、外食関連の需要が一定程度回復し、出荷量が10.00千ト増加の52.19千ト、輸入量は6.41千ト増加したが在庫は減少し、令和元年(2019年)11月(同99.9%)以来11か月ぶりに前年を下回った。
	2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構の需給予測(令和2年12月24日公表)では、令和2年11月は国内生産量が前月より減少(約6.2千ト)し、輸入量も前月比で約3.5千ト減少、出荷量も前月比で約11.7千ト減少するため期末在庫は約157.7千トと前月より約3.3千ト減少し、前年(166.19千ト)より約5.1%減少の見通しとなっている。 (2) 令和2年12月は前月比で生産量が約16.0千ト増加し、輸入量はブラジル中心に約3.0千ト減少、出荷量については約10.8千ト増加するため期末在庫は国産・輸入品合計で約156.5千ト(前年比96.7%)と予測されている。令和3年1月は生産量が約20.7千ト減少し、逆に輸入量が約1.9千ト増加、出荷量も約18.3千ト減少するも、在庫は約1.6千ト減少の約154.9千ト(前年比93.3%)と予測されている。しかしながら新型コロナウイルスおよび鳥インフルエンザ発生により需給動向に注視が必要である。
相	1. 令和2年12月動向 (1) 令和2年12月の月平均相場は、もも肉687円/kg(前月比+33円)・むね肉311円/kg(同+9円)正肉合計で998円/2kgと前月比で42円上回り、前年比でも126円上回った。もも肉は月初668円で始まり、多少下げはあったものの上げ基調で推移し、後半700円台に突入し月末710円/kgで42円高となった。むね肉も、月初305円で始まり、多少上げ下げはあったものの上げ基調で月末315円の10円高となった。最需要期を迎え、量販店・生協等からの引き合いも強まり、12月15日時点で正肉合計で1,000円/2kg台(1,003円/kg)となり、最終掲載日(12/29)で1,025円/2kgとなった。
	2. 見通し (1) 令和3年1月は、気象庁発表による向こう1か月の気温は、前半に強い寒気の影響を受けかなり低くなる予報となっている。コロナ禍のなか、鍋物等での需要が増加することからも肉は強含みで推移し月平均690円と予測する。むね肉についても、もも肉に付随し、いまだ加工筋からの引合いも堅調であり、強含みの月平均310円と予測する。 (2) 新型コロナウイルス感染が猛威を振り続けるなか、鳥インフルエンザの発生もあとを立たず、今後の国産鶏肉の需給への影響が心配される。内食需要が今後も継続していくとの予測から鶏肉生鮮相場は引き続き強含みで高水準での推移が見込まれる。

実績

生産状況 単位:千羽、千トン、%

	R2年11月推計実績		R2年12月計画		R2年合計		R3年1月計画		R3年2月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	60,526	99.2%	69,070	103.5%	763,688	102.1%	64,177	99.4%	61,247	99.0%
処理羽数	60,692	99.0%	66,874	101.2%	729,345	102.5%	58,908	98.8%	57,825	97.0%
処理重量	183.4	99.0%	200.1	100.4%	2,170.2	102.1%	175.3	97.8%	172.7	96.9%

※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」

輸入動向

単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R2年8月	40.3	50.5	79.8	33.2	42.0	79.2	73.5	92.5	79.5	54.8	45.2
R2年9月	41.5	53.6	77.4	35.2	41.1	85.6	76.7	94.7	80.9	54.1	45.9
R2年10月	47.9	51.6	92.8	39.2	45.5	86.1	87.1	97.1	89.7	55.0	45.0
R2年11月	45.3	48.8	92.8	42.7	45.2	94.6	88.0	94.0	93.7	51.5	48.5
R2年累計	492.3	517.9	95.0	425.3	465.6	91.4	917.6	983.5	93.3	53.6	46.4

※参考資料:全国食鳥新聞発行「PMN」、全国食鳥新聞

鶏肉の消費動向(2人以上の世帯)

単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年8月	1,473	1,244	118.4	1,348	1,121	120.2
R2年9月	1,401	1,343	104.3	1,327	1,242	106.8
R2年10月	1,538	1,483	103.7	1,424	1,312	108.5
R2年平均	1,544	1,384	111.6	1,409	1,267	111.2

※参考資料:総務省統計局HP

相場(年別・暦年)

単位:円

	もも肉	むね肉	計
H26年	626	294	920
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883

在庫状況(推定)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年7月	29.5	29.0	101.6	140.6	127.6	110.2	170.1	156.6	108.6
R2年8月	28.0	28.7	97.4	139.2	128.2	108.5	167.1	157.0	106.5
R2年9月	27.8	29.9	93.0	138.4	134.5	103.0	166.2	164.3	101.1
R2年10月	26.8	29.3	91.5	134.1	137.9	97.3	160.9	167.2	96.3

※実績参考資料:畜産日報、農畜産業振興機構

相場(月別)

単位:円、%

品名	もも肉			むね肉			正肉合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R2年9月	609	544	111.9	281	235	119.6	890	779	114.2
R2年10月	632	556	113.7	292	254	115.0	924	810	114.1
R2年11月	654	570	114.7	302	262	115.3	956	832	114.9
R2年12月	687	606	113.4	311	266	116.9	998	872	114.4
R3年1月	(690)	622	110.9	(310)	262	118.3	(1000)	884	113.1
R3年2月	(690)	597	115.6	(300)	253	118.6	(990)	850	116.5
R2年平均	614	585	105.0	269	243	110.7	883	828	106.6

※()は見直し

※1-12月平均